

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190501429), 法人名 (社会医療法人 共栄会), 事業所名 (グループホーム まいホーム川北二番館 4階), 所在地 (札幌市白石区川北1条3丁目7-18), 自己評価作成日 (令和3年 10月 30日), 評価結果市町村受理日 (令和3年12月20日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年同様、今年も新型コロナ感染により、自由に買い物に行ったり運動に行ったり、家族様と面会や外出が出来ない状況ですが、ホームの中では皆さんそれぞれが好きなパズルをしたり、趣味活動を行ったり、運動がてら廊下を往復して歩いたりされています。職員も、入居者様も全員ワクチンを2回接種していますが、マスクを使用し消毒や換気を徹底して行い感染予防に努めています。ホーム内では月に1回のレクリエーションを行い、食事は入居者様の好みの物を手作りしたり、たまには出前を取ったりしています。職員が手作りしたゲームの種類も少しずつ増え、ゲームはいつも白熱して楽しんでいます。これからも皆さんと協力して感染予防に努め、安心した生活を続けていけるよう努めていきたいと思ひます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501411-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年11月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

(Empty box for external evaluation comments)

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目 (Item description), 取り組みの成果 (Achievement criteria), 項目 (Item number), 取り組みの成果 (Achievement criteria). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation criteria.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	居間や管理室内の見やすい場所に理念を掲示しており、いつでも確認できる。職員は理念を共有し実践に繋げるよう努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症予防の為、今年も古紙回収程度の交流となっている。現在も町内会に入会しており、回覧板などもまわってきている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症予防の為、地域の方々と直接的な関わりはなく、電話やメールでの対応となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催しているが新型コロナウイルス感染症予防の為、現在も管理者と職員で会議を行い議事録を家族様などに郵送し意見を伺い、サービス向上に活かすよう努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者が行っている。必要事項の連携や協力を仰ぐなど関係構築に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切行っておらず、カンファレンスでも理解を深めている。言葉使いなども含め日頃から互いに注意しあっている。1階の玄関は防犯上オートロックになっており、各ユニットの玄関は夜間のみ施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ビデオ研修やカンファレンスなどで虐待防止について勉強し、互いに注意しあい、言葉かけや態度等にも配慮し虐待は一切行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方がおり、カンファレンスなどで勉強し制度についての理解を深められるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にしっかりと説明し質問にも丁寧に答え理解を得ている。利用者様や家族様の不安や疑問点にもいつでも対応し理解や納得を得ている。解約時や改定時も同様である。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階に意見箱を設置したり、第3者機関のポスターも掲示しているが現在も新型コロナ感染予防の為、家族様の面会は少なくなっている。毎月のお便りに写真を同封し日頃の様子や体調の変化なども細かくお伝えしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者はリーダー会議やカンファレンスに同席したり、日頃から職員の意見や要望・提案を聞く機会を設けている。管理者から代表者などに、その旨伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人個人の努力や実績・勤務状況、やりがいなど各々が向上心を持って働ける環境作りに努めている。管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを深め働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の状況に応じ法人内外の研修を受ける機会はあるが新型コロナ感染症予防対策で、法人外の研修は難しく法人内のビデオ研修などを受けている。職員は日々働きながらレベルアップしていけるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年も新型コロナ感染予防の為、交流は出来ない。管理者は電話などで他事業者との連絡や情報交換などを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人から困り事や不安、要望などを伺い出来るだけ安心して頂き、早い段階で信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様同様、入居前にしっかりと話を伺い困り事や不安・要望などの把握に努め、より良い関係作りに努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にしっかりと状況を把握し、今必要としている支援が何かを見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各々の出来る事、やりたい事を理解し出来るだけ長く続けて行けるよう支援している。共に暮らす者同士として尊敬心を忘れず、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お便りを郵送し、日々の様子や写真を同封し体調の変化などもお伝えしている。出来るだけ密に連絡を取り合い共に支える関係作りに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防の為、自由に外出はできないが、電話や手紙などで馴染みの方々との関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性や関係を把握し食事の席なども配慮している。自室で過ごす事を好む方もいるが、孤立しない様ゲームや体操・活動などへの参加を呼び掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や問い合わせには随時対応しており、他のサービスとの連携調整も行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりの中からご本人の希望や意向などの把握に努め出来るだけ沿うよう努力している。思う様に伝えられない方には、日頃の様子や表情などから汲み取り出来るだけ本人本位になるよう努力している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に出来るだけ詳しく聞き取りし、得られた情報は記録に残し、いつでも見る事ができ職員全員で共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で体調の変化や出来る事、出来ない事、出来た事、出来なくなった事などを細かく把握するよう努力しており、得られた情報は職員全員で共有している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とは毎日の生活の中で意見などを伺い家族様とは電話などで連絡を取り、ご本人がより良く暮らせるよう意見や意向を伺っている。カンファレンス等で職員で話し合い現状に即したプラン作りに努めている。デイケアとのカンファレンスも定期的に行いプラン作りに役立てている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきなどはケース記録や管理日誌、気づきシートなどに個別に記録し、日々の申し送りやカンファレンス等で情報を共有している。ケアプランの見直しにも、その内容を活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケア通所や病院受診、介護タクシーや訪問美容の利用などの支援を行っている。また、コロナ感染予防の為、買い物には行けないが、自動販売機の利用や病院の売店での買い物などの支援を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は町内会のお祭りや町内清掃に参加したり、避難訓練にも地域の方々に参加を呼び掛けていた。現在は新型コロナウイルス感染防止の為、古紙回収以外は行っていない。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族様の希望に応じて受診できる。かかりつけ病院(トロイカ病院)と連携をとりながら適切な医療が受けられるよう支援している。皮膚科の往診や、眼科・整形外科・耳鼻科・歯科など状態に応じ随時受診する事が出来る。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、毎日の状態を報告し共有している。病院受診時も職員が同行し情報を提供したり相談したりしている。定期的に訪問看護もあり、いつでも相談できる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には添書を作成し日頃の状況を伝えている。現在は新型コロナウイルス感染防止の為、入院中のお見舞いに行けないが入院先の看護師などから情報を頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居後、出来るだけ早い段階で重度化や終末期について、ご本人や家族様、担当医などと話し合い納得されている。重度化した場合や終末期には家族様と相談しながら意向に沿うよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を受けており、それぞれの既往歴や現病歴などの把握に努めている。緊急マニュアルはいつでも見る事が出来る。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、夜間想定での訓練も行っている。以前は消防の方や地域の方にも参加を呼び掛けていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止の為職員のみで行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの人格を尊重した言葉かけや対応をしている。入浴や排泄時など羞恥心にも配慮し、希望によっては同性介助も行っている。個人的な事は、居室で話すなどプライバシーにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で、その人の希望や思いは把握するよう努めている。洋服選びや活動など出来るだけ自身で決めて頂いているが、出来ない方には、その方の好みなどに応じて提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ希望に沿うよう努めている。自分で決められない方には、いくつか提案し、その中から選んで頂くなど、希望に沿った生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人の好みを把握し、その人らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。季節や気温に合った洋服選びが出来る様状況に応じた対応をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ好みを把握し工夫を凝らしてメニュー作りを行っている。外食は行けないが、出前を取ったり配食サービスも利用している。食器拭きなどの簡単なお手伝いも職員と共に行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事摂取量や水分摂取量など記録している。個々の状態に応じた食物形態や量・栄養バランスにも配慮している。月2回体重測定を行い栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや状態に応じた介助や見守を行っている。義歯洗浄も毎日行い、清潔が保てるよう支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを把握している。状態に応じた声掛けや介助を行い、夜間のみポータブルトイレを使用して頂くなど出来るだけ自立にむけた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記入し、個々の排便パターンの把握に努めている。乳製品や繊維質の多い野菜を多く使用するなど献立作りにも配慮している。食事前やオヤツ前の体操や廊下歩行、足上げ運動などで便秘にならないよう支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間や早朝を除き出来るだけ希望に沿って入浴して頂いている。要望によっては安全確認や見守りも同性職員が行ったり、入浴剤を使用し、ゆったり安全に入浴出来る様支援している。デイケアでの大きなお風呂にも入る事ができる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも好きな時に休む事が出来る。居室内の温度や湿度にも配慮し、定期的に寝具の交換や清掃を行い清潔を保ち気持ちよく眠って頂けるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬表をファイルし、いつでも確認が出来る。個々の状態に応じた服薬支援を行い、受診後は細かく記録し申し送り等で職員全員が共有している。状態に変化があった時は、かかりつけ病院に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ジグソーパズルや塗り絵など好きな事を楽しまれている。冬季以外はホーム周辺を散歩したり1階の花壇から花をつんでくるなど気分転換を図って頂いている。現在バッティングセンターには行けないが、自販機で好みのジュースを買いに行く事も支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染予防の為、面会は窓やドア越しとなり、外出もホーム周辺の散歩程度の状況が続いている。緊急やむを得ない場合のみ、短時間の外出となっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は自身で行われているが、大方は家族様の了解を得てホームで管理している。必要な物はスーパーから配達して頂き、職員が支払いを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話をかけたり受けたりすることが出来る。手紙や年賀状の投函なども希望に応じ対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・居間・各居室の入り口には季節に応じた飾り物を飾ったり、クーラーや加湿器・空気清浄器などを使用し温度や湿度、換気にも配慮している。テレビの音量などにも気を配り居心地良く暮らせるよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には3人掛けソファ、2人掛けソファ、1人掛け椅子などがあり、好きな場所で自由に過ごす事が出来る。感染予防から密にならないよう配慮しながら仲のいい入居者さん同士でお話したり、テレビや新聞・雑誌を見たりと思い思いに過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの品や家具、飾り物などを持参されたり、自身で書いた塗り絵や家族の写真を飾るなど、それぞれが居心地良く生活されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札や目印を付け、トイレや浴室なども、解りやすく表示されている。床はバリアフリー、トイレや浴室、廊下には手摺が設置され、廊下には障害になるような物は置かず安全に配慮している。		